

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

最終評価

大阪市立伝法小学校

令和 7 年 2 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和 5 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は 74.7%。
- 令和 5 年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は 34.1%。
- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「5 年生のときにうけた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合が 10%。

中期目標 (令和 7 年度末まで)

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「5 年生のときにうけた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 15% 以上にする。

2 年度目標 (中期目標の達成に向けて)

全市共通目標・学校の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度 (74.8%) 以上にする。
- 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度 (82.6%) 以上にする。
- 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度 (79.3%) 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度 (34.1%) 以上にする。
- 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和6年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度（71.1%）以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（前年度7.7%）
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。（前年度100%）

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」に関する年度目標、「未来を切り拓く学力・体力の向上」に関する年度目標、「学びを支える教育環境の充実」に関する年度目標については、計画通り教育活動を行ったことによって、ほぼ目標通り達成することができた。特に学習者端末の活用については、子どもへの活用の指導の結果、目標を大幅に上回ることができた。しかしながら、いじめに関することや学力・体力の向上に関しては、まだまだ指導の余地があり、今後の指導方法や取組内容を工夫することでさらに改善させができると考える。

いずれにしても、これらすべての目標については、単年度で達成すればいいというものではなく、継続して取り組み、達成していくことで、子どもたちのよりよい成長を導き出せるものである。来年度においても、子どもたちの課題を教職員全体で共通理解し、さらなる工夫や改善を加えながら、学校全体として取り組んでいく。

大阪市立伝法小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（74.8%）以上にする。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（82.6%）以上にする。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（79.3%）以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【本市基本計画番号 1-1 いじめへの対応】</p> <p>「いじめについて考える日」の取組や、アンケート等の実態把握、朝の会や帰りの会で友達の良かったところを発表したり、休み時間に学級全員で遊んだりするなど、自己有用感を高め合える活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。</p> <p>指標 「いじめについて考える日」の取組を年 1 回、いじめアンケートを年 3 回、他学年とのメッセージ交換をする「ぽかぽかの木」を各学期 1 回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【本市基本計画番号 1-2 不登校への対応】</p> <p>「心の天気」、「アセス」、スクリーニング会議、家庭訪問、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの困り感に応じた丁寧な対応と、情報共有、不登校の早期対応・解消に努める。</p> <p>指標 不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報共有を月 1 回実施する。</p>	B

取組内容③【本市基本計画番号 1-3 問題行動への対応】	B
毎朝、校門前でのあいさつ指導や、児童会の「あいさつ運動」を実施し、自ら進んで気持ちのよいあいさつができるようになるとともに、規範意識や自律の意識を高める。	
指標 「あいさつ強化週間」を年 3 回実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は「81.2%」だった。 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、「84.5%」だった。 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は「79.2%」だった。 <p>①「いじめについて考える日」には、各学級で授業を通していじめについて考える機会を設けることができた。また、いじめアンケートにおいても計画通り実施しており、実施した後には各担任が丁寧に聞き取りを行い、対応することができている。自己有用感を高める取り組みとして、「ぽかぽかの木」や「いいところみつけ」など、年間を通して行うことができた。児童集会の特技集会や委員会発表などで活躍する場ができ、達成感を</p>

味わう機会が増えた。

- ②「心の天気」や「アセス」を活用することで児童の困り感をとらえ、児童との対話や家庭訪問、電話連絡などで対応している。そして、児童理解の会議を月1回開き、児童の様子を伝え合うことで、他学年の児童の情報も細かく共有することができた。
- ③児童会が中心となって取り組んだいさつ運動や児童朝会での指導を繰り返し行うことで、自らいさつをする児童が増えた。

次年度への改善点

- ①「いじめについて考える日」を1学期だけではなく、2・3学期にも伝法小学校独自で取り組むことによって、いじめへの意識がより高まると考える。学校アンケートにおける「自分にはよいところがある」に対して、肯定的回答が低学年は90%以上であったが高学年は80%を下回っていたので、高学年への自己有用感を高める手立てが必要である。今後も、学級での活動や授業などで、児童の良さを取り上げ認めていく機会を積み重ねていく。
- ②次年度も、「心の天気」や「アセス」を活用して、児童の実態を把握し、早期発見、解決に努める。今年度、共有した内容については次年度に確実に引き継げるようする。また、家庭との密な連携についても継続して取り組んでいく。
- ③いさつ運動を継続して行った結果、門付近でいさつをする児童は増えたが、廊下や教室等でいさつをする児童は少ない。また、いさつ運動時には、いさつに対する意識が高まるが、それ以外の時にはまだ課題が残るため引き続き指導をしていく。

大阪市立伝法小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（34.1%）以上にする。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度（71.1%）以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【本市基本計画番号 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究会を全学年で実施すると共に、指導力向上に向けた校内研修会を実施する。</p>	B
<p>指標 各教員において公開授業を年間 1 回以上実施する。また、指導力向上に向けた校内研修会を年間 1 回以上実施する。</p>	
<p>取組内容② 【本市基本計画番号 4-1 言語活動・理数教育（思考・判断・表現）の充実】</p> <p>始業前や「伝法タイム」を活用して読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、学力向上を目指す。</p>	B
<p>指標 読書タイムと音読タイムを週 1 回、2・3 年生の放課後学習を週 2 回、でんでん漢字検定を学期 1 回実施する。</p>	
<p>取組内容③ 【本市基本計画番号 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>子どもの困り感に目を向け、体つくりを軸にした運動を体育科や日々の生活の中に取り入れ、体力・運動能力の向上に努める。</p>	B
<p>指標 運動に触れる機会につながるチャレンジタイムとデンリンピックを年間 1 回以上実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 29.5% と前年度の 34.1% を下回ったが普段の授業では、ペアやグループで話し合う活動を多く

取り入れている。

- ・経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると4年生は0.03ポイント向上、5年生(-0.24)と6年生(-0.02)については減少した。
 - ・経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると4年生(0.01)と6年生(0.16)は向上し、5年生は0.05ポイント減少した。
 - ・「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は72.8%と、前年度の71.1%を上回った。
- ①②③と指標通り計画的に実施することができている。
- ①一人一回研究授業を行うことで、授業力の向上につながった。
- 公開授業では、全教職員が積極的に参加し、様々な意見を取り入れ、参考にする機会になった。
- ②自主学習として週2回やるように声かけて提出を促してきたが偏りがある。
- 家庭学習力UP週間を通して、学習習慣の定着を促すことができた。
- ③伝法体操やビジョントレーニングなどの体つくりを通して、学習に向かう力を育むことができた。運動場は狭いが、講堂を使ったり運動場の割り振りを決めたりすることで体を動かす機会の確保ができた

次年度への改善点

- ①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、「思う」の回答が大きく減少したことから、どの授業でも自分の考えを深めたり広げたりできるような話し合う活動を取り入れながら、引き続き授業研究会や校内研修会を通して、指導力向上に努める。
- ②家庭学習の重要性、時間の取り方、内容、仕方など、子どもだけでなく、保護者にもアピールしていく。コグトレはオンラインを活用して、学級の課題に応じたものに取り組ませる。
- ③来年度も運動場や講堂の配当を決める。機会の確保と安全面を考慮し、ルールを徹底する。定点調査の1回目の結果から、学年（学級）として何に重点的に取り組むかを決める。

大阪市立伝法小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。（前年度 7.7%） ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100% にする。（前年度 100%）	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【本市基本計画番号 6-1 ICT を活用した教育の推進】 学習時や伝法タイム・心の天気等において、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上をめざす。 指標 学習者用端末を学習時や伝法タイム等においては週に 3 日以上、心の天気においては毎日活用する。	A
取組内容② 【本市基本計画番号 7-1 働き方改革の推進】 長時間勤務の解消を通じ、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。 指標 学校閉庁日を設けて年次有給休暇を取りやすくする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日の 76.2% だった。 ・年次有給休暇を 10 日以上取得した教職員の割合は 93% であった。 ①学習時や伝法タイム・心の天気等において、学習者用端末を学年に応じた使い方で活用することができた。心の天気はほぼ毎日入力することが習慣化し、学習時にはドリル練習や調べ学習に使ったり、自分の考えを書き込んで共有したりするなど、昨年度より活用率が上がった。（年間授業日の 76.2% となった。） ②カリキュラムマネジメントを行い、始業式と終業式の前後に授業をすることによって、長期休業日が 1 ~ 2 日増えた。また、適正な授業時数になるよう年間指導計画を見直すことで、宿題や提出物の点検、授業の準備、校内研修や会議の時間が確保できた。	
次年度への改善点	
①学習者用端末を授業内で効果的に使うことができるように、学習ソフトの種類や使い方を指導者が理解し、習得する必要がある。また、学習用端末の活用方法について系統立てて計画を立て、各学年使い方を身に着けていく。 ②長時間勤務を解消するために、できるだけ学校行事の追加や変更を減らし、見通しを持って仕事に取り組むことができるようとする。	

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立伝法小学校学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果については、妥当である。それぞれの取組についても課題解決に向けて着実に前進していると評価された。今後も課題改善に向けて、工夫を加えながら継続して取り組んでいくことを期待するとの意見を受けた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、各学年、いじめ防止に取り組み、目標を達成することができた。しかし、学年が進むについて肯定的な回答が低くなる傾向がある。引き続き自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う活動の実践を積み重ね、いじめを許さない集団づくりに努めて欲しい。不登校については、改善した児童もいれば、新たに不登校になった児童もいて、結果的に全体の不登校率が減少していないことから、引き続き、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にして、不登校改善に向けて取り組んで欲しいという意見を受けた。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

公開授業を含めた研究授業を計画的に実施することで、教員は授業力向上に熱心に取り組んでいる。小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率は向上が見られた学年とそうでない学年があった。学力向上については、まだまだ課題が見られるが、これまでの取組を引き続き粘り強く実践することが大切だという意見を受けた。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

今年度、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上を目指した取り組みは一層進んだ。さらに、ICT 活用を推進してほしい。一方で、ICT だけに留まらず、実際に「読む・書く力」も身に付くよう指導してほしい。教職員が生き生きと働くことができるような環境整備が進んでいる。教員・子ども双方の学校生活を充実させるためにも、引き続き環境整備に努めて欲しいという意見を受けた。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校アンケート（保護者）の回答には「よくわからない」と回答する家庭が一定数いることから、さらに学校教育活動を地域に向けて発信してほしい。